

東郷町立春木中学校



< 12月17日・1月21日 >

授業名人として、愛知教育大学教授の長沼健先生に定期的にご指導を受けています。

12月17日の第4回目の授業名人活用推進事業では、1年「身のまわりの物質」と2年「化学変化と原子・分子」の単元での授業研究を行いました。協議会では、グラフ作成能力や器具を扱う能力を養うことの大切さについて話し合われました。また、実験値と理論値の差を生徒にどのようにして理解させるかについてアドバイスをいただきました。

1月21日の第5回目の授業名人活用推進事業では、2年「天気とその変化」と3年「物質の変化」の単元での授業研究を行いました。自然の不思議さを考えること、化学実験ができるという自信をもつことなどの経験を通して、生徒は科学に対する関心・意欲を高めていくということを教えていただきました。

長沼先生からいただいた貴重なご助言を、今後の教育活動に有効に活かしていきたいと考えています。

東郷町立春木中学校



授業名人として、元中学校教諭である小嶋玲子先生に定期的にアドバイスをいただき、「classroom English を用いて、生徒が英語に接する時間を増やす。生徒にコミュニケーション活動をさせるためには、『誰に、何のために、何を伝えるのか』を明確にし、意味のあるコミュニケーション (meaningful communication) の場を設定することが大切である。」という点について特に気をつけながら授業を行っています。

試験問題作成時には、行事など生徒にとって馴染みのある英語を取り入れることが大切であるというアドバイスをいただき、実践しています。

東郷町立春木中学校



< 12月5日、1月16日 >

授業名人である愛知淑徳大学教授の松本青也先生をお招きして、研究授業を行いました。12月5日の第4回目の研究協議会では、教材研究の大切さについてクリスマスカードと年賀状の違いなど、具体的な事例をもとにわかりやすくご指導をいただきました。「言葉の力」は「言霊」であり、気持ちと英語が直結するように訓練することが大切であることを示唆していただきました。

1月16日の第5回目の研究協議会では、授業に取り組む際には、何を目的としているのかをよく考え、ねらいを明確にすることの大切さについて日本文化と外国文化の違いから、外国文化を異質なもの(異文化)としてとらえさせるようにご指導をいただきました。また、最後のまとめとして会話の授業では、場面設定をはっきりとさせ、モデル文をつくって覚えさせ、使えるようにしていくことが力をつけていくことであることと、中学校でもできるだけ授業の中では、英語を使うようにという2点が大切であるということを確認し合いました。